

# 健育会グループにおける 医療DXの推進と進捗について

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



今後、日本は少子高齢化が加速し、働き手が減っていくことが予測される中、医療介護の分野ではいかに質を落とさずに省力化していくかということが大きな課題となっています。

そこで昨年2月に健育会グループのヘルスケアシステムズは、人工知能研究の第一人者・松尾豊氏が顧問を務める松尾研究所とタッグを組み、医療分野におけるAI導入への取り組みを開始したことを発表しました。今回は、その後の医療DXにおける取り組みの進捗についてお話ししたいと思います。

本年度は医療DXへの投資の年。人口が減り医療に携わる職員も減る中で、いかにDXで仕事を効率化していくかが大事になってきます。効率化によって、職員が減っても変わらぬ医療・介護の提供を実現できます。

具体的に健育会グループが昨年何をおこなったかという、まずは各病院、施設にスマホを導入。現在グループの8割近くの病院、施設で導入が完了し、LINE WORKSで多職種の職員同士でコミュニケーションが円滑になり、チーム医療として関わった患者さんの情報共有が早くなりました。現在ではまだ一部の施設でしか対応できていないスマホとナースコールとの連動も全病院、施設に対応する予定です。また、スマホと電子カルテとの連動も準備が整い次第、順次対応していく予定です。

また、各施設で利用者さんのベッド上での状態（心拍、呼吸、体動、離床等）をリアルタイムで確認することで、利用者さんの安全と職員の業務効率が図られるパラマウントベッド社の眠りスキャンやバイオシルバー社のaamsといった見守りシステムの導入も進めています。



ホームページに関しても、健育会のアウトブランディングの意味も含め、DXの一環として随時リニューアルを進めています。

そして、松尾研究所とのコラボレーションによる、生成AIでのソリューション開発も継続しています。

昨年9月には、健育会グループの病院一同で、医療DXで先駆的な病院である愛媛県のHITO病院を訪問。HITO病院が取り組んでいるDXについての説明や、病院の見学をさせていただきました。



昨年10月、医療業界のDXを推進し、医療サービスの質の向上と効率化を図るため、HITO病院の石川理事長が代表理事を務める日本病院DX推進協会が設立されました。病院だけでなく一般企業も数多く加入しており、健育会も設立時に加入いたしました。協会はネットワーキングの場を提供しながら、医療DXを広く浸透させるためにテクノロジーの標準化とベストプラクティスの共有や啓発、そして提言としての発信も行っていく予定です。

DXは日進月歩で、ここまでできれば終わりということはありません。日本病院DX推進協会に加入したことで、他の病院の成功事例や企業の新しい技術・ソリューションを吸収しつつ、HITO病院のような医療DXにおける先駆的な立場となれるよう、これからも邁進し続けたいと思います。

